

越水正典氏, 第9回 堀場雅夫賞受賞

本会会員の越水正典氏（東北大学大学院工学研究科 応用化学専攻 准教授）が、第9回堀場雅夫賞を受賞した。受賞対象の業績は「ナノ構造を有するシンチレータ材料の開発」である。

堀場雅夫賞は、画期的な分析・計測技術の創生が期待される研究開発を行う若手研究者を対象として授与されている。毎年、授賞対象となる分野が設定されており、今年度は放射線計測分野が対象となっていた。第9回（平成24年度）には、越水氏を含む4名に授賞された。

越水氏は、ナノ材料を利用したシンチレータ材料の開発を進めてきた。シンチレータは蛍光材料の一種であり、光検出素子と組み合わせることにより放射線検出器を構成する。高い検出効率と良好なタイミング特性という長所を活用し、広汎な分野で利用される検出器である。ノイズとの弁別が容易であり、なおかつ良好な時間特性を得るためには、高い発光収率と短い減

衰寿命とが要求される。

従来のシンチレータ材料開発アプローチでは、絶縁体結晶+発光中心という組み合わせでの材料探索が主流であった。これに対し、今回の受賞では、半導体量子井戸構造や半導体超微粒子中の励起状態からの発光を利用するアプローチや、プラスチックシンチレータ中にナノ粒子を添加することによる検出効率の向上手法が、業績として評価された。現在は、放射光施設での高エネルギーX線検出用、あるいは中性子検出用としての材料開発を進めているとのことである。ナノメートルスケールの構造を有する物質系において、放射線により生じる電離・励起状態の移動や、発光に至るまでのダイナミクスについては、そのほとんどが未解明である。今後、励起状態ダイナミクスの解明を通じ、ナノ材料における放射線化学研究の新展開が切り開かれることが望まれる。

（日本放射線化学会 編集委員会）

勝村庸介氏, 岡 壽崇氏, AARR Award 受賞

本会会員の、勝村庸介氏（東京大学大学院工学系研究科教授）が AARR Award (AARR: Asian Association for Radiation Research) を、また、岡 壽崇氏（前大阪大学産業科学研究所、現東北大学大学院理学研究科助教）が AARR Young Scientist Award をそれぞれ受賞した。本会会員の特記すべき業績として、「本会のページ」欄に掲載する。

受賞式および受賞スピーチは、2013年5月に中国・北京にて開催される ACRR (3rd Asian Congress of Radiation Research: ACRR2013) で行われる予定である。会議の案内は、<http://www.acrr2013.org> を参照されたい。詳細は本誌次号（2013年9月発行の第96号）に参加記を掲載する予定である。

第3回 ACRR (ACRR2013) は、中国の放射線研究連合にあたる CCRR (China Committee for Radiation Re-

search) によって開催される。ホームページによると、ACRR2013は「放射線防護と放射線緊急事態：現状と展望」をテーマとしており、カバーするトピックは、福島第一原子力発電所事故から、放射線障害の診断・治療、疫学など、放射線化学を含む非常に幅広い範囲を対象としている。

このような広い範囲の放射線研究を網羅する機会において、放射線化学分野から2名の受賞者があることは、放射線化学のプレゼンスが認知されたことを、また更なるプレゼンス向上の可能性を示す功績として、本会の存在意義をおおいに高めるものといえるだろう。また、何かと閉塞感の報じられる最近のわが国にとっても、おおいに鼓舞されるニュースである。両氏の今後を期待したい。

（日本放射線化学会 編集委員会）